

天神くずれ（多可郡加美町、西脇市日野町）

「おい、えらいこっちゃ、天神さんが社〈やしろ〉ごと流〈なが〉れてしまうー。」

むかし、清水〈きよみず〉村は大洪水〈だいこうずい〉に襲〈おそ〉われて、村のほとんどが流され、村は右往左往〈うおうさおう〉の大騒〈おおさわ〉ぎとなり、村人たちはとるものもとりあえず近くの山の上へと逃〈に〉げ登〈のぼ〉り、つぎつぎと濁水〈だくすい〉に呑〈の〉まれてゆく自分たちの家や田畑をどうすることもできぬまま、うらめしそうに見下〈みおろ〉していました。と、その時、とつぜんものすごい音とともに村の西南に突〈つ〉き出ている山がくずれ、その突端〈とつたん〉に祀〈まつ〉られていた天満〈てんまん〉神社が社もろとも濁流〈だくりゅう〉の中へ押〈お〉し流されてしまいました。

そのありさまをつぶさに見た村人たちは、

「靈験〈れいげん〉あらたかな守〈まも〉り神でさえ流されるんやさかい、わしら人間どもの家や田んぼが流されるのはあたり前のこっちゃ……。」
と、呆〈あき〉れはてたと諦〈あきら〉めともつかぬ言葉〈ことば〉をはくのでした。

やがて、幾日〈いくにち〉かが過〈す〉ぎたある夏のことでした。日野村前嶋〈ひのむらまえじま〉では賑〈にぎ〉やかな夏祭〈なつまつ〉りが催〈もよお〉され、近くの村村からは老若男女〈ろうにゃくなんによ〉がどっとつめかけて踊〈おど〉りの輪〈わ〉が幾重〈いくえ〉にもできて、はずんだ太鼓〈たいこ〉の音がいちだんと祭りをもりあげていました。

「きょうは何の祭だんにや（ですか）。」

と、聞いてみますと、

「天神さんの夏祭りだんにや（ですよ）。」

との答えが返〈かえ〉ってきました。

はて、たしかにここには天満神社などなかったはずだがと思っていると、この前の大洪水のときに天神さんが社ともども流れついたので祀〈まつ〉ったのです、と教えられて、よく見ると、それはまさしく清水村の天満神社でした。あの大洪水のときに杉原川〈すぎはらがわ〉をいっきに下〈くだ〉って、ここ前嶋村に留〈とど〉まったのです。

それからずっといままで、天満神社は前嶋村の氏神〈うじがみ〉として祀〈まつ〉られてきました。

いっぽう、清水村ではもと天満神社のあった土地のあたりをいまも「天神くずれ」という呼び名でよんでいます。また、天満神社が濁流〈だくりゅう〉にのまれたあたりを「渦〈うず〉のもと」といっています。

